

令和３年度第１回亀岡市環境審議会議事録

- 開催日時 令和３年１２月１５日（水）午前１０時００分～午後０時１５分
- 開催場所 亀岡市役所 別館３階 会議室
- 出席者 黒田幹男委員、田部委員、櫻井委員、塚本委員、井内委員、高澤委員（会長）、太田委員、黒田洋二郎委員、坪井委員
浦幹事、山内幹事
（事務局５名）
- 欠席者 山川委員、稲村委員、吉川委員、由良幹事、関幹事

○ 議事録

１ 委嘱状交付

２ 会長挨拶

３ 審議事項

（１）第３次亀岡市環境基本計画の策定状況について

意見・質問	回答
計画書の印刷体裁などについては、どのようなになるのか。	冊子５００部、Ａ３版見開きの概要版１，５００部を用意することとしている。
概要版は全戸配布されないのか。わざわざ自分からインターネットで計画を見る人も少ないと思う。	作成部数の都合上、全戸配布は考えていないが、環境学習の場などで活用するとともに、必要に応じて増刷するなどの対応をする。
西暦と和暦が混在しているため、両方並記してほしい。	御指摘のとおり並記する。
年表記と年度表記が混在しているので、整理した方がよいと思う。	国やその他で公になっている表記も年表記と年度表記が混在している状況にあることから、誤字脱字ではない。再度、精査した上で表記したい。
計画に記載されている事業実施時期が「年」だけのものもあれば、「年・月」のものもあるので、「月」まで入れた方がより明確になると思う。	（意見のみ）

体系図案について、冊子に入れるとすれば案２が良いと思う。ただ、イラストが入っている案１の方が市民の皆さんには馴染みやすいのではないかな。	(意見のみ)
体系図を見てもらおうと思うと、文字を少なくして、文字を大きくし、イラストを入れた方が良いと思う。その点では案２が良いと思う。	(意見のみ)
案１・２ともにＳＤＧｓのアイコンがあるが、サイズが小さくて読めないのではないかな。白抜きの字も見づらいと思う。ＳＤＧｓのアイコンは白黒もあるので、そちらの方が見やすいのではないかな。	ＳＤＧｓのアイコンについては、亀岡市環境基本計画推進会議でも様々な意見があり、２頁にＳＤＧｓの１７のゴールを大きく記載し、３頁以降については、ＳＤＧｓの番号が認識できる大きさとしている。概要版では、ＳＤＧｓのアイコンが見えなければ概要版としての効果が薄れてしまうことから、大きさ・色合いについては、できる限り見やすく、分かりやすくしたい。
体系図案１・２ともに、目指すべき環境像が一番上にあり、その下に重点目標、施策となっているので、案２の方が見やすいと思う。好みの問題でもあるが、案１のように施策を円で配置して、それが集まって重点目標が達成できるというようにしてもよいのではないかなと思う。施策を円形にランダムに配置することで動きもあって、手に取ってもらえるのではないかな。	(意見のみ)
体系図案１・２の文字数が多いのではないかな。体系図に全てを記載しなければならないのか。例えば、施策の分野である１から６だけを記載して、各施策となる（１）などは記載しなくてもよいのではないかな。	(意見のみ)
ＳＤＧｓの認知度は低いことから、ＳＤＧｓの説明をもう少し詳しく記載した方がよいと思う。まずはＳＤＧｓを知ってもらうことが重要だと思う。	(意見のみ)
４頁の現状と課題は、亀岡市環境基本計画推進会でも議論された課題なのか。	アンケート結果の分析や現計画の進捗管理を反映したものとなっている。

18頁・重点目標2の主な成果指標でエコバッグ持参率100%とあるが、現状が98%であれば達成できているのではないか。別の指標を採用した方がよいのではないか。	エコバッグを忘れられた方へは紙袋を販売している状況にあることから、市として紙袋もできる限り少なくしていくとの意味も含めて、目標をエコバッグ持参率100%としている。
19頁の概要に「環境を基軸とした地域版SDGs」とあるが、どのようなものなのか。SDGsの認知度が低い中で、地域版SDGsが必要になるのか。	国の第5次環境基本計画ではSDGsの考え方を活用し、地域の中で資源を循環させる「地域循環共生圏」が提唱されており、本計画においても地域循環共生圏を意識して、地域版SDGsという表現としている。
重点目標の「関連する施策」の「施策の分野」と「施策」が分かれているが、例えば、重点目標1の「関連する施策」の「1 脱炭素の推進」は、「施策」の(1)から(6)に関連しているという、横のつながりが分かるような見せ方にした方がよいのではないか。	御指摘のとおり、見せ方を修正する。
成果指標として、数値目標を掲げることとは大変なことであると思うが、掲げるのであれば、算定根拠についてもどこかに示してほしいと思う。また、その数値目標が実現可能なか気になる。	御指摘のとおり、算定根拠を明確にするとともに、掲げる数値についても実現可能であるか再度精査する。
重点目標1の目標として、2013年度比で46%削減とあるが、2013年度比というのはどの時点で比較するのか。概要では、「今後、2030年度までに」との目標年度が示されているが、どの時点で各年度と比較して策定しているのか。	重点目標1の主な指標にある46%の削減については、今後、各年度の数値を算出して比較していくこととなる。本計画の計画期間は2031年度であるため、目標数値としては、2031年度の時点で46%削減することとしたい。
28頁の成果指標にある「亀岡市役所における温室効果ガス総排出量」では、目標が▲35%となっているが、市全域の目標が▲46%なのだから、同じ▲46%にすべき。市役所が達成できない部分を他の事業者が削減しないといけない、市役所が足を引っ張っているようにも見える。	現在、市の事務事業における削減目標は35%であるが、今後、見直す必要もあることから、御指摘のような疑念を抱かれないような表現や指標を検討する。
第4章の表紙となる部分はないのか。	御指摘のとおり、第4章の表紙となる頁を設ける。

エネルギーの地産地消や再生可能エネルギーの拡大などについて、亀岡には河川があるので、太陽光以外に「水力」についても言葉として入れてはどうか。	本市において、小水力発電の可能性もあることから、言葉として計画に盛り込みたい。
計画全般であるが、片仮名の単語が多い。中には説明もあるが、行政の常識として使われているものもあるため、市民が見るという視点で見やすいようにしてほしい。	片仮名表記については、計画全体を見直し、分かりやすい表現や日本語表記などを並記できるか検討する。
26頁に「Vehicle to Home」とあるが、どういうものか。	「Vehicle to Home」の通称「V2H」（ブイ ツー エイチ）は、電気自動車に充電されている電気を家庭に供給できる新たな技術である。亀岡市内にある企業の技術でもある。
36頁の成果指標の（2）ごみの総排出量の数値を細かく設定しているのは、何か意味があるのか。	亀岡市ゼロエミッション計画で掲げている数値としている。
56頁にある「外国につながる人々」というと、ネットワークのようにみんなが外国につながるというように思え、違和感がある。	亀岡市環境基本計画推進会議の委員で多文化共生の取組を進めておられる方の御意見を踏まえ、帰化された方や国際結婚をされた方などを含めて「外国につながる人々」と表記している。
61頁の農地の保全について、水田の環境への効用をもう少し触れてもよいのではないか。災害だけでなく、自然環境へのやさしさなど、いろいろなものがあると思う。水田に水が張られていることで温度上昇の抑制効果もあるのではないかなと思う。	水田が持つ多面的機能についての記載を検討する。
昔に比べると生態系も変わってきたのではないかなと思う。川から魚が消えたように思うし、ジャンボタニシやヌートリアなどの外来種の問題もあると思う。	ジャンボタニシについても、表記を追加したい。
各施策の分野の中に、成果指標が設けられているが、指標のない施策もある。指標のない施策については評価しないのか。評価しないものに関して評価するのであれば、どのように評価するのかなどの記載が必要ではないか。	成果指標については、「実施」することが1つの成果となるものもあるが、計画では、数値化できる指標の方が伝わりやすいと考えており、成果指標の現状や目標が「実施」となるものについては掲載していない。

(2) 第2次亀岡市環境基本計画の令和2年度の実施状況について

(3) 亀岡市環境白書について

意見・質問	回答
亀岡市として、環境が悪化して、問題となっていることがあれば教えてほしい。	大気関係では、光化学スモッグの原因となる光化学オキシダントが環境基準を上回っているが、全国的にも同一の傾向にある。 騒音に関しては、自動車騒音が一部国道9号線で夜間の基準を超えている状況にあるが、市全体として極端に数値が悪化しているとか早急に対応しなければならない部分はなく、概ね良好な状況を維持しているものと考えている。

4 閉会